南紀生物，38(1)：27-28，1996

八重山列島，西表島で初めて採集されたイガイ属2種（軟体動物門，二枚貝綱，イガイ目）

久保田　信*・島　袋　ときわ**

Shin KUBOTA and Tokiwa SHIMABUKURO: Two mytilid bivalves (Mollusca, Bivalvia, Mytiloida) collected for the first time from Iriomote Island, the Yaeyama Islands

南西諸島ではこれまで分布の記録がなかったイガイ属の2種が，沖縄県八重山郡西表島の北東部に位置する宇奈利崎で初めて採集されたので，貴重な資料として報告する。両種とも著者の一人，島袋により1995年の冬季に採集された。標本は，貝殻のみを島袋が自宅で保管している。

1.　発見された内の一種は，イガイ *Mytilus coruscus* GOULD，1861である。前後軸長66 mm，殻皮が茶色の左殻（図1）が，1月18日に磯に打ち上げられているのを採集した。殻はほとんど損傷しておらず，内面には真珠光沢がみられた。殻の外表面中央には，蓋板の取れたフジツボ類とカンザシゴカイ類が数個体ずつ付着していた。

イガイは，北海道から九州にかけてと朝鮮半島に限定分布する二枚貝である（波部，1977; 奥谷ほか，1989などを参照）。わが国では，港湾にはみられず，浅海の潮どうしのよい岩礁に群生していることが多い。西表島の周辺海域で自然分布しているのならば，どのような状態で生息しているのか今後の調査が待たれる。

2.　今回初めて発見された他の種は，チレニアイガイ *Mytilus edulis galloprovincialis* LAMARCK，1819で，宇奈利崎に漂着したブイに付着していたのを2月23日に採集した。ブイには多数の個体が生きたまま付着しており，その中で大型のものは，前後軸長が53-69 mm (N=8) であった（図2）。

最近，沖縄県の慶良間列島阿嘉島に中華人民共和国産のものと推定されたこの種が，多数個体，黒潮と季節風の影響により冬季に漂着したが（久保田・林原，1995），この現象と今回の西表島での漂着に深いつながりがあるものと思われる。今後もラフティングによる国外からの本種の漂着状況と分布の拡大の可能性に充分留意する必要がある。

著者の一人，久保田による最近の数年間にわたる西表島各地およびその近隣の島嶼でのイガイ類の分布調査では，本種および上記のイガイも確認されなかった。チレニアイガイは，わが国に今世紀に移入後，各海域に分布

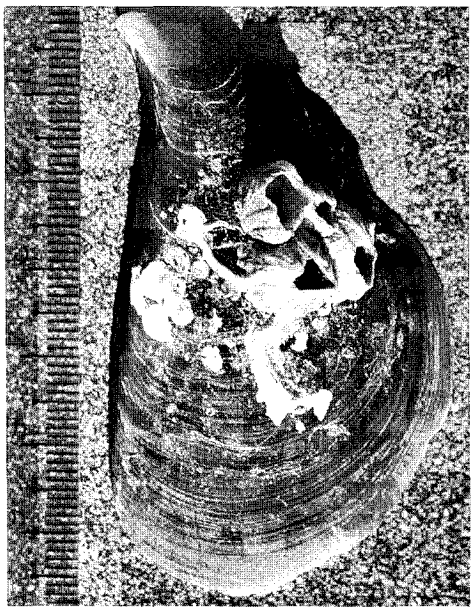

図1　イガイ（打ち上げ個体）

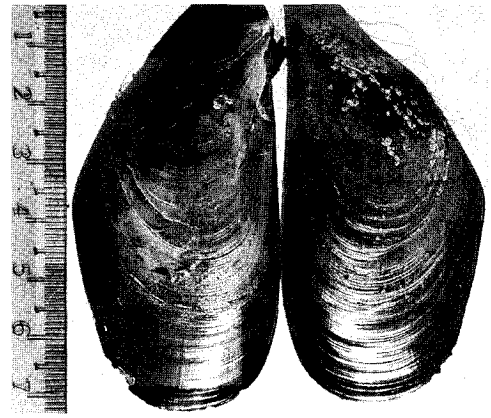

図2　チレニアイガイ（漂着したブイに付着していた大型個体）

* 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所（〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海）
** 〒907-15 沖縄県八重山郡竹富町字西表1499

域を拡大してきたものの，九州南部の鹿児島県沿岸より南方には定着していない（久保田ほか，1995）。しかし，著者の一人，島袋は，以前に西表島白浜付近の岩礁にチレニアイガイが少数ながらも付着していたのを記憶している。この記録は，おそらく，今回のような漂着により，偶発的にもたらされたものなのであろう。

参 考 文 献

波部忠重．1977：日本産軟体動物分類学　二枚貝綱／掘足綱．372頁，北隆館，東京．

久保田信・林原　毅．1995：慶良間列島，阿嘉島へ漂着した多数のチレニアイガイ．みどりいし，**6**，17-19．

久保田信・山本泰司・能崎不二夫．1995：桜島および屋久島で採集されたチレニアイガイ（二枚貝綱，イガイ目）―本種の日本での分布南限地について―．南紀生物，**37**(2)，121-122．

奥谷喬司編著．1986．決定版　生物大図鑑　貝類．399頁，世界文化社，東京．

南　紀　生　物
第38巻　第1号　別　刷

Reprinted from
NANKISEIBUTU : The Nanki Biological Society
Vol. 38,　No. 1
May. 1 9 9 6